

## 超高齢化社会における義歯の役割

～オーラルフレイルと摂食嚥下障害の視点から～

鳥取市立病院 地域医療総合支援センター 生活支援室  
リハビリテーション部  
歯科 目黒道生先生

高齢社会の進展に伴って生活機能が低下し、日常生活を送るのに様々な支援を要する住民が増えつつあります。口腔に関しては、経口摂取や口腔衛生の障害が現れ、結果として低栄養や誤嚥性肺炎などに至ることがあります。

歯科技工の観点からは、義歯などの補綴物を機能させ、そして長期間にわたって使用できるのかが課題ではないでしょうか。従来の補綴学や歯科技工学に加え、更に学問が融合することが必要かもしれません。そのような新たな知見をご紹介し、応用について皆様と議論し、新たな発展につながる事を目標に今回の講師を務めさせていただきます。

私は歯周病学を専門とし、その感染症学としての臨床家の立場から誤嚥性肺炎を予防するための口腔衛生に着目しました。10年経過した現在は、口腔衛生だけではなく摂食嚥下の必要性を感じ、専門としています。

摂食嚥下には、乳幼児期の「発達獲得モデル」、脳血管疾患の病態治療に応用された「4期連続嚥下モデル」、そして咀嚼嚥下を説明する「プロセスモデル」が主たるモデルとされています。これまでの健常者を対象とした補綴学・歯科技工学から、フレイルやオーラルフレイルの高齢者を対象とした学問を背景に実臨床に生かす上では、「プロセスモデル」の理解が重要です。Stage1 transfer, processing, Stage2 transferを理解し、口腔周囲の解剖学および生理学から義歯の形態や機能を一緒に考察したいと思います。